

7月12日付け「高知新聞」記事(1面・25面)

「市町村史編さんラッシュ 県内17自治体刊行&準備中」



標記記事によると、土佐清水市以外でも、津野町と安田町(2025年刊行予定)、佐川町(2030年刊行予定)が近く刊行を計画している

この中で、土佐清水市史についての取材に基づいた記事が掲載された。

「古里への愛着と誇りを持つための基軸書。地域の未来を開くヒントがある」と強調するのは、市史編さん室長の田村公利さん(57)。ドローンでの空撮やレーザー測量など最新の手法を取り入れたほか、各地に残る災害碑などの拓本も紹介し、過去と現代、未来をつなぐ一冊とする考えだ。

(土佐清水市史に関係する記事の引用)

【記事に掲載されている市町村史の課題点】

- ①専門的過ぎて、児童生徒の学びに使うのは難しい。
- ②高齢化による郷土史家の減少
- ③博物館や資料館がなく、資料の散逸や文化財の紛失が見られ、適切な保存が難しい。

先週、高知市内に居住する土佐清水市出身者の方から市史編さん室に『新・土佐清水市史』を予約したいとの電話が入った。令和6年3月末に刊行するということと、販売方法などが確定すれば、また連絡をさせていただくことをお伝えした。

このように刊行を心待ちにいただいている方もたくさんおられる。最後まで市民のみなさんの期待にお応えできる、良い市史が刊行できるよう気を引き締めていきたい。

県内の戦争遺跡シリーズ(2) 香南市夜須町手結

～第128震洋隊(手結基地)～

第2回は香南市夜須町手結に置かれた「第128震洋隊」の悲劇について触れていきたい。昭和20年(1945)8月16日、終戦を告げる玉音放送の翌日19時、第23突撃隊本部(須崎市)から「敵機動部隊が本土上陸の目的を持って、土佐沖航行中につき、直ちに出勤してこれを撃滅すべし」との無電命令が下った。

この命令に応じ、第128震洋隊は、直ちに出勤準備を行う。途中、震洋艇の試運転中に突如1隻から出火し、次々と22隻が誘爆を起こした。隊員のほとんどは1隻目が出火した時点で、誘爆を恐れて一旦壕の中に避難した。15分ほどしても誘爆が発生しなかったため、

上官は「消火のため、全員壕から出よ！」と命じた。その直後、多くの隊員が壕から出て消火の対応に当たっていたとき、誘爆による大爆発が発生した。住吉海岸沿いの松の枝に黒焦げになった遺体が引っ掛かるほどの凄まじい爆風であった。

175 人中(搭乗員と整備員)、実に 111 人もの尊い命が瞬時に犠牲となった。ここから考えると、8 月 16 日はまだ完全に終戦ではなかったといえる。少なくとも国民の大多数の意識は極めて不安定な心理状態にあったのである。

【参考・引用】田村公利「土佐歴史余話・第 132 震洋隊(土佐清水基地)後編」(『土佐史談 280 号』土佐史談会、2022 年)

四国霊場第 29 番札所「土佐国分寺」

法燈連綿 1200 年余り。聖武天皇の勅願により行基(668~748)が天平 13 年に創建したという伝承を持つ。後に弘法大師・空海(774~835)によって真言宗寺院として中興され、四国八十八か所巡礼の第 29 番霊場となった。宝物館もあり、国指定文化財なども見学できる。



(寺のホームページによると拝観料は 1 人 500 円、お寺カフェ(抹茶と和菓子セット)500 円。)

—「土佐国分寺境内」に隣接する総社—

比江(ひえ)に国庁が置かれ、国司が土佐を治めていた時代に、国内の代表社(式内社)を巡拝することにかえて、土佐国 21 社(安芸 3 社・香美 4 社・長岡 5 社・土佐 5 社・吾川 1 社・幡多 3 社)を国庁所在地に勧請して 1 社として合祀、建設したのが総社であり、国分寺の近くに移設され、地域が氏子として管理している。



←南国市の朝日

戦争遺跡「掩体」、土佐国分寺のほかにも南国市には歴史的に価値のある遺跡や文化財がたくさんあります。是非、一度訪ねてみてください。